

城北学園同窓会

常任幹事会通信

平成十三年三月二十六日

されました。

〈ホームカミングの実施〉

- ・卒業生に同窓会を印象づけるため、毎回、期を限定して、総会の案内状を出す。出欠の返信をつけ、いわゆるホームカミングデーの形をとる。
- ・また、学園主催の行事等も、卒業年度別に分けて順次開催する。

〈会報の発行について〉

- 第一・二回常任幹事会報告—

同窓会の活性化をめざし

常任幹事会を開催

昨年七月からスタートしました杉崎新会長のもとで、同窓会のより活発な活動をめざし、常任幹事会が学園会議室で開かれました。

ご承知のように、城北学園同窓会は、二つの役員会を軸に運営されています。

一時は、正副会長五名と正副幹事長三名（副会長・副幹事長とも規約上は若干名）で構成されている常任幹事会。もう一つは、各期の代表幹事二百三十名と常任の八名で開かれる常任幹事会です。

久しく常任幹事会が開かれていなかつたこともあって、常任幹事会の出席状況は、残念ながらいちでしたが、第一回、第二回とも心強い活発な提案・意見が出されました。

※ 第一回常任幹事会

九月二十二日午後四時より（出席者二十五名）

- ① 会長挨拶
- ② 新役員の紹介
- ③ 顧問の推薦の件
- ④ 同窓会の活性化について

十月三十一日午後五時より（出席者二十二名）

- ① 同窓会の活性化方策
- ② その他

寄稿のお願い

城北学園同窓会 会長 杉崎 完夫

て発行することになりました。

同期会・クラス会・OB会等の開催状況や同窓の活躍を伝える、いきいきとした紙面で同窓の交流と親睦をはかつてゆきたいと思います。

各位からの、ご寄稿をお願いいたします。

—第二回常任幹事会報告—

五月一一十六日に定例総会

ホームカミングも実施

季刊紙を発行し、卒業生の寄稿を掲載する。

- ・同窓会報にクラス会等の活動状況などを集めて載せる。
- ・同窓会報の発行を増やし、先生方や生徒の現状について、理解する機会づくりを。また、生徒達と接する場を学園祭のほかにもつくっては。

〈パーティー・旅行会等の開催〉

- ・毎年一回、場所を決めて同窓会のパーティーを開く。
- ・学園祭の時に同窓生が集まるように呼びかける。

- ・同窓会主催の旅行会、学園の山荘を利用して、同窓会総会と一緒に旅行をかねるのも一案。

- ・数年に一回、武道館規模の場所で講演会を開く。講師はできれば卒業生から。

〈その他〉

- ・在校生のために、何かまとまつた資金援助を。例えば、奨学金・クラブ活動に対する補助など。
- ・常任幹事以外に、一クラス一名の幹事が必要。
- ・故近藤校長先生の銅像（胸像）の建立を。

〈会合の日程について〉

- ・休日だと出席できるが、今回もウイークデーの、しかも月末の忙しい日の、仕事中の五時からでは。
- ・旧制 一回 昭和二十一年三月卒
- ・新制 十八回 昭和四十一年三月卒
- ・新制三十八回 昭和六十一年三月卒

以上、丸つの卒業年度同窓を対象に、ホームカミングデーを実施することになりました。該当の会員に対して

この第一・二回常任幹事会で、次のような提案・意見が出

「常任幹事会通信」第一号をお届けいたします。一月の常任幹事会で審議され、常任幹事のニューズレター的会報として発行することになりました。

